



# よい子 つよい子 できる子

新井小学校たより 5月号

平成29年5月26日

HPアドレス <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/arai-s/>

## 情熱を傾け、笑顔で取り組む『チーム新井小2017』を目指して

校長 川住晴彦

「おはようございます！」。新年度がスタートして2か月。朝、玄関先での1年生のあいさつの声が大きくなっていました。学校生活に慣れてきたのでしょうか。

「我慢することを覚える」といことがある。」と子どもたちに伝えてきましたが、それが身に付いて成長する子どもが増えています。高学年のある子どもは、前学年のノートの文字と今の文字がまったく別人のように「気持ちの入った」「丁寧な」文字になっています。友達や先生に対する言葉遣いが丁寧になった子がいます。当たり前と言えば当たり前のことがですが、指名されたら返事をし、ノートに下敷きを入れて学習し、よい姿勢を保てる子どもが増えました。教室に落ち着いて居られるようになった子がいます。表情も温和です。友達とトラブルを起こしても仲直りが上手になった子がいます。何よりも、毎日教室の様子を見守る私から見て、どのクラスもしっかりと学習(教師)に向かい、頑張っている様子が伝わってくるのはとても嬉しいことです。

子どもたちを支えている職員について触れてみます。

環境整備は、二人の用務員が支えています。3月末の樹木とプランコ、鉄棒などの冬囲い外し、4月に教材園の耕しと畠用具倉庫の整理整頓、5月に入っては玄関脇通路の足場の設置(駐車場から犬走りを通って車いすが直接入れるようになりました。)とグラウンドの芝生の草取りなどなど、八面六臂の活躍です。直接、子どもたちにかかる仕事ではありませんから、決して目立つことはありませんが、職員一人一人、感謝するばかりです。まさに、「縁の下の力持ち」です。(子どもにも、担任を通して伝えます。身近な人に感謝の気持ちを持たせることも大事な教育ですから。)

「支援員の先生」と呼ばれる特別支援教育支援員は、12人います。職名のとおり、特別な支援の必要な子どもの支援が主な仕事です。「支援」は、決して特別支援教育にだけ必要なものではありません。通常の学級に在籍していても、例えば、話を最後まで聞けずにしゃべってしまう、聞くだけでは理解が十分でない、分からなくとも自分から聞くことができない、落ち着かなくなると我慢できないなど、様々な支援が必要なケースがあります。「障がい」は、理解と支援の必要な個性と言われます。聴覚に障がいがあるなら、それを理解して筆談や手話で対話すればいいのです。449人の新井っ子一人一人の個性を理解し、支援していますが、学級担任は、全体を見なくてはいけませんから、どうしても目が届かないときがあります。そんなとき、支援員の先生が大いに活躍してくれています。とはいっても、何でもかんでも助ければよいというものではありません。

その子自身が頑張らなくてはいけないとき、よかれと思った助けが徒となってしまうことがあります。頼ってしまうことで自立できないのです。「子ども自身が伸びるために、手出しと口出しのタイミングを考えてください。」とお願いしています。そして、特別支援学級担任、交流学級の担任と打ち合わせて、支援の仕方を相談しています。休み時間には、体育館やグラウンドや教室で担当する子どもに寄り添っています。ですから、担当以外の子どもが抱きついたり、腕にぶら下がったりしています。見ても楽しい様子です。さらに、子どもがいないときは、教室やトイレの掃除をしたり、掲示物を貼ったり、教材教具づくりをしたりしています。

教育補助員の先生は、授業の支援が仕事です。空いている時間、担任がテストプリントなどを印刷しようとすると、「先生、何枚ですか？印刷して持って行きますよ。」と、担任が授業に専念できるよう、声をかけてくれます。教員免許をもっているので、担任が出張などで不在の時には授業に入り、丁寧に教えてくれます。

図書司書は、新任です。「何も分からないので……。」と言いながら、懸命に仕事を覚えようと努めています。子どもの質問にやさしく応えてくれます。これから伸び代が大きいのが何よりです。

私は、全校児童の副担任としてかかわるとともに、「引き算の学校経営」(重点化と精選により、教師が子どもと向き合う時間を生み出し、大事にすべきことに力を注ぐ)を進めています。「チーム新井小2017」を、どうぞよろしくお願ひいたします。



# 『一人一人全力で勝利をつかめ!W優勝!』新井小学校 運動会



1・2年 とるぞ！まもるぞ！みんなのしっぽ



応援合戦



3・4年 大綱引き



5・6年 大玉送り



6年 全員紺リレー



児童会種目 借り物レース



3・4年 Let's Go 妙高！



5・6年 騎馬戦



1・2年 ちえっこり親子de玉入れ



中学生レース



6年 マーチングドリル演奏



新井中学校の応援団！



# 第1回学校運営協議会を行いました

今年度から妙高市の全ての小学校でコミュニティ・スクールが始まりました。

新井小学校では、昨年度に「学校運営協議会」の準備会を数回開き、円滑な実施に向けて準備を行ってきました。

5月12日に、第1回の学校運営協議会を行いました。授業を参観していただき、子どもの様子等について活発な意見交流が行われ、学校と地域が力を合わせ、それぞれの立場で子どもたちの成長を支えていこうということが確認されました。

また、委員の皆様からは、今年度の学校経営方針等について承認していただきました。

今後、子どもや教職員、保護者、地域にとって魅力あるコミュニティ・スクールとなるように取り組んでいきます。



教育委員会から一人一人に委嘱状が渡されました

## 〈学校運営協議会委員〉

No.	氏名（敬称略）	所属等	備考
1	新井 時男	白山町	会長
2	金沢 良隆	斐太南地区	副会長
3	小川喜美子	姫川原地区	事務局長
4	丸山 義忠	矢代地区	
5	瀬戸 满雄	小出雲	
6	佐藤 賢治	上越教育大学特任教授	
7	宮田 友子	主任児童委員・民生委員	
8	宮腰トク子	地域コーディネーター	
9	大塚 一枝	第三保育園 園長	
10	相浦 剛	PTA会長	
11	松橋 賢一	PTA副会長	
12	黒石 陽子	PTA副会長	
13	川住 晴彦	新井小学校 校長	
14	田中枝利子	新井小学校 主幹教諭	事務局次長



## 〈活発な意見交流がされました〉

子どもと教員の心の距離が近く安心した。

1年から6年までこんなに成長するのかと驚いた。学校の力を実感した。

学校でやるべきことと家庭でやるべきこと、地域がやるべきことがある。全てを学校に任せではない。

鉛筆の持ち方がよくない。正しく持つてしっかりとした文字を書いてほしい。

授業では、一人一人の教員が自分のもち味を發揮していた。子どもが生き生きと学んでいた。

働き方改革が進められている。教員は忙しそう。もっと子どもと向き合う時間をつくってほしい。

子どもの姿勢が悪い。聞く姿勢を身に付けさせたい。



# 今年度の職員研修

## 〈研究主題〉 「主体的に対話し、高め合う児童の育成」

昨年度の研究で、授業の中に話合いの場面を多く設定したことで、進んで話ができる子どもが増えてきました。今年度はさらにその数を増やしていきたいと考えています。今年度は、「主体的に対話する」という姿を目指します。教師が一方的に教えたり、一部の子どもだけが話したりする授業から、全ての子どもが進んで話す授業に、さらに一歩進んで考えを高め合える授業を目指します。

教師に言われたことや与えられたことに対しては、誠実に取り組むというよさが新井小の子どもたちのよさですが、さらに主体性や自主性を身に付けられるよう、成長させていきます。

### 1 「話したくなる授業」を作る（授業研究）

「問題意識、目的意識を生ませるにはどうしたらよいか」「話したい・聞きたいという思いを高めるにはどうしたらよいか」などを考えて、教師全員が授業を公開します。

今年度も第一弾は川住校長の授業です。

5年2組で国語の授業をしました。段落の順番を入れ替えた説明文の文章を正しく並べ替えるという課題でした。

自分が正しいと思う順番の根拠、他の意見（順番）がおかしいと考える理由を進んで話す子どもたちの姿を見て、問題意識のもたせ方や子どもの意見をつなげる教師の技術を学び、職員は大いに刺激を受けました。

これから来年1月まで、続々と授業公開が行われます。



### 2 自分たちで、よりよい学級に

#### していくための学級会の充実

子どもが「学級の問題」を見付け、議題化し、自分たちで話合いを進め、決定できるようにしていきます。子どもの司会で学級会を進められるように、「議事の進め方シート」を活用します。「自分たちの力で企画した」「めあてに近付くような」イベントや取組、係活動について話し合う経験を積むことで、進んで話そうとする態度が育つと考えています。

### 3 自信をもって話せる能力（スキル）を付ける指導（日常指導）

新井中学校区の全小中学校で共通に取り組む「話す力3つのポイント」を意識させます。

- ①大きな声ではっきりと話す
- ②相手の顔を見て話す
- ③意見があったら進んで話す

話型指導の他にも、30秒から1分間程度のスピーチ、群読、早口言葉などで楽しみながら大きな声を出す活動に取り組みます。